

玉川上水・野の花だより No. 15

カライトソウ (*Sanguisorba hakusanensis*) バラ科ワレモコウ属

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 6月2日

カライトソウ (唐糸草) は、初夏に紅色の小さな花を数多くつけ、穂状に咲く花で、優美な姿が、唐から渡来した絹糸を想起させることから、この名前がついたと言われていています (出所:『新牧野日本植物図鑑』)。

葉は、武蔵野にみられるワレモコウとそっくりで、大山緑道では、秋の七草のワレモコウも、秋には開花すると思います。

カライトソウの花は、写真にみられるように、長さ 4~10cm の細長い筒状の穂先にうす紅色の小さな花が多数つき、別世界にいざなうような風情があります。穂先から順次、下の方へと開花していきます。

日本の固有種で、学名の *hakusanensis* は、「白山の」という意味で、両白山地 (りょうはくさんち) に分布することから、この学名がつけられました。両白山地は、岐阜県、富山県、石川県、福井県にまたがる山地で、加濃越山地ともいわれています。白山を主峰とする加越山地と、能郷白山を主峰とする越美山地に分かれ、「両白」は、それぞれの山地を代表する二つの白山を示したものです。九頭竜川が両山地の境界となっています。大山緑道で、ご近所に住まわれていると思われる、ご婦人が、声をかけてくださいました。

「山が好きで、若いころは、山登りが大好きでした。なかなか、山に行くこともできなくなりましたが、こうして散歩をしながら、山の花に出会うことは、本当にありがたいことです」



カライトソウ (唐糸草) の花言葉は、「深いおもい」です。

カライトソウ
2026年5月31日
撮影